

**製品名:** トロポニン I-C (リン酸化 Ser43) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号:** APRab05589

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください (12 ヶ月有効)。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	26kDa

**抗原情報**

遺伝子名	TNNI3
別名	TNNI3; TNNC1; Troponin I; cardiac muscle; Cardiac troponin I
遺伝子 ID	7137.0
SwissProt ID	P19429
免疫原	抗血清は、Ser43 のリン酸化部位周辺のヒト TNNI3 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 11-60

**背景**

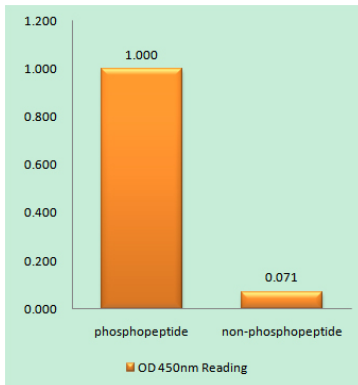
トロポニン I (TnI) は、トロポニン T (TnT) およびトロポニン C (TnC) とともに、横紋筋の細いフィラメントのトロポニン複合体

を形成する3つのサブユニットの1つです。TnIは抑制サブユニットであり、アクチン-ミオシン相互作用を阻害することで横紋筋の弛緩を調節します。TnIサブファミリーには、TnI-skeletal-fast-twitch、TnI-skeletal-slow-twitch、およびTnI-cardiacの3つの遺伝子が含まれます。この遺伝子はTnI-cardiacタンパク質をコードし、心筋組織でのみ発現します。この遺伝子の変異は、家族性肥大型心筋症7型(CMH7)および家族性拘束型心筋症(RCM)を引き起こします。[RefSeq提供、2008年7月],疾患:TNNI3の欠陥は、拡張型心筋症2A型(CMD2A)[MIM:611880]の原因です。拡張型心筋症は、心室拡張と収縮機能障害を特徴とする疾患であり、うっ血性心不全および不整脈を引き起こします。患者は早死にするリスクがあります。疾患:TNNI3の欠陥は、家族性肥大型心筋症7型(CMH7)[MIM:191044]の原因です。家族性肥大型心筋症は、通常は非対称性の心室肥大を特徴とする遺伝性心疾患で、しばしば心室中隔が侵されます。症状には、呼吸困難、失神、虚脱、動悸、胸痛などがあります。運動によって容易に誘発される。この疾患は、良性から悪性まで、家族内および家族間で多様性があり、心不全および突然死のリスクが高い。疾患:TNNI3の欠陥は、家族性拘束型心筋症1型(RCM1)[MIM:115210]の原因である。RCM1は、心室壁厚および収縮機能は正常またはほぼ正常であるにもかかわらず、心室充満障害と拡張期容積の減少を特徴とする心筋疾患である。機能:トロポニンIは、横紋筋アクチンミオシンATPase活性にカルシウム感受性を付与する細いフィラメント調節複合体であるトロポニンの阻害サブユニットである。類似性:トロポニンIファミリーに属する。サブユニット:アクチンおよびトロポミオシンに結合し、TRIM63と相互作用する。、

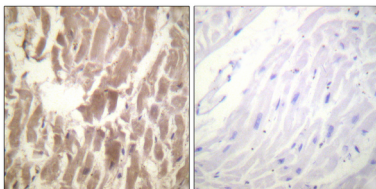
## 研究分野

心筋収縮;肥大型心筋症(HCM);拡張型心筋症;

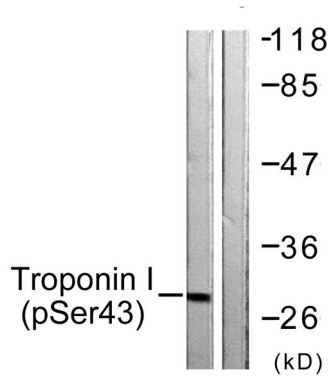
## 画像データ



TNNI3 (リン酸化 Ser43) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



TNNI3 (リン酸化 Ser43) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト心臓の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



TNNI3 (リン酸化 Ser43) 抗体を用いた Jurkat 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。